

しができると思えません。八百津町にとって、千載一遇のチャンスと思われるが、今後、どのように対応していくのか、次の5点について伺う。

①現在の入館者数、各種売上げの報告と現場での対応、意見について

②休館日の対応について

③商店街や杉原千畝記念館への誘導標識等、観光ルートの対応について

④杉原千畝記念館近辺で観光客のための希望者による八百津町の特産品のテント販売、さらには、町内買い物割引券などの町の利益につながるような販売促進について

⑤リピーターを確保するためのイベント施策、魅力づくりとしての総合的な計画について。

答 (藤本産業課長)

現在の入館者数については、4月以降11月末までに3万6750人、入館料収入は84万5千円となっております。また杉原千畝記念館でのグッズ販売の売上げ状況については、4月から11月までにグッズ・図書販売が151万5千円ほどとなっております。

杉原千畝館長及び国際交流員、3人のパート職員により対応しておりますが、杉原千畝氏の人間愛を伝える記念館として、お客様に不快な思いを与えないよう、清潔さ、美しさを保つてい

けるよう努力しております。また、杉原千畝氏のごことに非常に熱心なおお客様も多く、専門的なご質問もあり、杉原千畝記念館の持つ使命の大きさに、非常に気を配って対応している状況です。

次に休館日の対応についてですが、せっかく多くの方が訪れているこのときを逃してはいけません。月曜日の休館日に間違えて来てしまう人も多くあり、休館日も開館したらどうかという声を耳にしております。映画公開真っただ中のちょうどこのときのデータが大切だろうという思いもあり、昨日は休館日でしたが、杉原千畝記念館の内部資料の整理も兼ねて職員を配置し、来館者の調査を行いました。結果については、19組43人の来館があり、県内12組27人、県外7組16人でした。

今後も展示の質を常に高め、館内も常に清潔に保ち、飽きられないより良い施設として存続させていくためには、多くの博物館・資料館でも休館日があることをまずご理解いただけたらと思います。また、休館日における来館者の調査や開けることへのメリット・デメリット、対応するための人員配置についても検討しながら、休館日の対応については判断していきたいと考えております。

次に八百津商店街への観光客

のルートづくりについては、タウンプロモーション室において、杉原千畝生家跡地の看板を作成中です。来年早々には設置の見込みで、これを商店街への誘客のルートづくりの一つとしたいと考えております。

また、杉原千畝記念館においても全ての来場者に入場券と一緒にスタンブラリーのパンフレットをお渡しし、積極的にご案内していく予定です。

そして、ふるさと応援寄附金では、寄附者全員にお礼状とあわせて、1年間有効のパスポートを送り、さらには、今回、「八百津町周遊2日間春の旅」というものを、お礼の品に加えさせていただきます。

商店街への案内看板については、ネーミングやデザインも含め、総合的なプランの中での取り組みが必要かと思っておりますので、商工会とも連携をとりながら検討していきたいと考えておりますし、のぼりについては、傷みが激しい商店街街路灯タペストリーの新調と、ユネスコ世界記憶遺産に向けてののぼり50基を作成するため、今回の補正予算に上げさせていただきます。

また、広域的な観光ルートづくりについては、高山市、敦賀市、金沢市、白川村、そして八百津町の5市町村連携による外国人向け、観光コース「杉原千畝ルート」の商品化を進めてお

ります。9月には、福岡市で開催された「杉原千畝展」に展示協力し、九州の旅行社による八百津町と敦賀市をめぐるとツアーが企画され、3月には九州からのお客様も来ていただけることになりました。今後もタウンプロモーション室と連携し、積極的に行っていきたいと考えております。

次に町の利益につながるような販売促進については、現在、割引券の企画はありませんが、商店街の皆さまからアイデアあふれる企画のご提案がありましたら、町も積極的に協力し、プランづくりについても一緒に進めて取り組んでいくつもりです。

また、ふるさと応援寄附金には特に力を入れており、お礼の品を八百津町産、全てオンリー八百津にこだわっています。これにより4250万円が町内の事業者や農家の方々への還元となることから、町内への経済効果に大きく寄与していることとなり、これによるブランド商品開発にも取り組んでいるところ

です。特産物のテント販売については、観光協会では「八百津マルシェ」と名づけ、八百津町の観光案内や特産品販売などの取り組みに向けて、今動き出しております。また、国道418号沿いのファミリーセンター入り口の第

4駐車場に、テント村をつくらどうかと考えています。行楽シーズンの休日や季節ごとに開催し、このテント市場を拠点に、商店街も一体となったイベントを打つのも良いのではないかと考えております。

次にリピーターの確保については、「八百津町観光振興計画」を2013年に策定し、「八百津へまた訪れたい」と思われる魅力に満ちた観光施策を目指し、計画に基づいた年度別のアクションプランを定め、多くの取り組みを始めています。

杉原千畝記念館は、ここ数年は多くの来館者があるものと考えますが、やはりこのままでは限りがあり、そのため施策として、記念館の展示のリニューアルや特別展の開催が考えられます。タウンプロモーション室では、ユネスコ世界記憶遺産への登録を目指している「杉原リスト」20点のパネルを製作しており、命のビザなど申請資料のレプリカの製作を進めております。これを杉原千畝記念館で常設展示や数年一度「命のビザ」のオリジナル展示をメインとした特別展など、インパクトの注目も必要です。さらに、杉原千畝氏の新しいホームページを制作中ですので、ホームページとも連動した杉原千畝記念館として、常に新しいニュースを発信していく計画です。